

番号	ページ数	御意見の概要	御意見に対する町の考え方
1	9	意識調査に回答している18-19才が1人（男性）しかいないので、若い年代の調査が不足していると感じた。国の統計で若年層の自殺率が増加傾向しているため、この世代の調査がより必要ではないか。	今回の意識調査では、地区や年齢に差がないように抽出しましたが、回答者が1人でした。若年層の自殺死亡率の上昇は全国的な課題でもありますので、今後の参考とさせていただきます。
2	16	相談、カウンセリングは費用や1人かけられる時間の制限があり、不安が生じる。そのような心配のない相談先が地域ネットワークの中に明確にあれば良いと思う。	費用や時間の制限なく相談を受けられる地域体制の構築は、人材確保等の理由から難しいものであると捉えています。現状の相談体制として、こころの健康相談会や各種相談先一覧を配布し、対象者の相談に合わせ、相談場所につないでおります。
3	21	町民への啓発と周知の中で、関心のある人の目に留まりやすいよう、本屋さんや図書館の心の問題を扱う本やメンタルヘルス関連のコーナーにリーフレットを置くのはどうか。	今後の自殺対策啓発のための参考にさせていただきます。
4	27	講演会やイベントは行けない人や少し興味のある人のためにYOUTUBEなどでライブ配信、アーカイブ配信をしてはどうか。	著作権等の関係で、ライブ配信やアーカイブ配信が難しい場合があります。講座の受講方法について、検討させていただきます。
5	29	自殺の背景は年代によって様々であるため、年代別にチーム分けをして対策、対応をしたら良いのではないか。	現在の自殺の背景は重層化しており、年代別のみの対策は難しいとの考えに基づき、町では若年層から高齢者までの幅広い年代の問題において、多方面から対応すべく、自殺対策推進連絡協議会を設置し、自殺対策を推進しております。自殺の背景は様々であると考えておりますので、引き続き、対策をしてまいります。
6	30	子供にとってSOSを出すこと自体がとても勇気のいることです。例えば図書館に常駐する相談員さんがいる、切手のいない相談ポストを町中に配置するなどの環境が必要だと思う。	図書館に常駐する相談員の配置や切手のいない相談ポストを町中に配置することは、管理上の問題から難しいと捉えております。子供がSOSを出す手立てについて、学校では月に1回アンケート調査を実施することや、子供がSOSを出せるきっかけづくりとして、SOSの出し方教室を毎年各小学校・中学校に御協力いただき実施しております。

番号	ページ数	御意見の概要	御意見に対する町の考え方
7	32	子供の下校時間に見守り散歩をしていただける方が欲しい。 また、子供の様子や異常、違和感への気づき、不審者接触の防止にもなり、連絡、報告できるシステムも必要である。	子供の登下校時には、各自治会が組織する子供見守り隊が登下校を見守っております。子供見守り隊との情報交換の仕組みについては、教育委員会部局と連携を図り、必要性や実態を把握していきます。
8	その他	メンタルケア関連の資格取得のサポートも充実させてほしい。例えばメンタルヘルスマネジメントの資格について、受験会場が現状では浜松市、横浜市になるため、近隣で受験したい。	メンタルヘルスマネジメント等の資格試験の誘致については難しいと考えますが、町といたしましては、ゲートキーパー養成講座を町民向けに開催しておりますので、講座の受講について御検討ください。